

令和 8 年度八頭町教育委員会 6 月定例会 会議録

○日 時 令和8年6月23日(火) 午後1時25分～午後2時50分
○場 所 八東庁舎 2階 第1会議室
○出席委員 小林委員、大上委員、谷口委員、西川委員
○欠席委員 なし

報告

- ・6月1日付人事異動。臨時議会で承認議決をいただき6月1日付で教育長就任となった。それに伴い、空席を埋める形で人事異動があった。社会教育課が1名減で、今年度は少人数で回していくことになった。学校教育課と連携しながら体制を整えていきたい。

議事

議案第1号 八頭町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置 実施計画の策定について

- ・文科省の示したガイドラインを基に策定。教職員の長時間労働が社会問題になっている。時間外労働時間の規制目標を定め、ガイドラインに従って先生方の健康管理に努めていただくためのもの。計画策定は義務付けられており、3箇年計画。3年経過後は新しい計画を策定する。

(委員)働き方改革は必要だと思うが、それが前面に出ると人材育成が遅れるのではという懸念ある。遅くまで残れということではなく、次世代をどう育成するのかということを管理職は持っていてほしい。ただでさえ教員のなり手不足なのに回らなくなるのでは。

(事務局)45時間超えている人は中核を担っている人。人材育成というのは非常に必要な観点だと思っている。教育委員会としてもしっかりと指示はしていないといけないと思っているところ。エキスパート教員や中核の先生中心にスキルアップ研修など各学校でしていただくことになるかと考えている。

(委員)各学校でもっとフォーカスを引いて、学校全体や町の教育を支えるためにはどうすることが必要なのかという視点を先生方に持ってもらいたい。そのための学びの機会や研修を各学校に設定してもらうのがいいのでは。

(委員)先生は自分がやらないと思う人多い。その考え方から変えていかないと。

(委員)時間外の原因に部活あると思うが、外部指導員などは。

(事務局)中学校の部活動について、地域移行していこうという方針はある。ただ、地域にクラブチームなどの受け皿がないと難しいところで、八頭町もそれで動けていない。課題は多く、クラブに預けたとしても新しい課題はある。

ただ、何らかの議論は始めていかないといけないというところで今年度は話し合いから計画しているところ。

(委員)先生方の意識改革が必要。100%やらないといけないと思っている人が多いが、メリハリ付けるのも能力。先生方に身に付けてほしい。

(委員)社会一般で見ると、先生方はこれでも守られている方ではある。本当は社会全体で取り組むべき内容。

・全委員一致で承認した。

議案第2号 専決処理の承認を求めることについて (八頭町社会教育委員の委嘱)

・全委員一致で承認した。

その他

・子ども達の活躍について（令和8年東部総体結果）

(事務局)城北中学校が開校すると、何名かは出ていく生徒いると思う。どこの自治体もその危機感がある。

(委員)全員入部のシステムをやめて放課後は自由、というのもできるか。

(事務局)今八頭中は全員どれかの部活に入ることを課している。それをやめることはできなくはない。ただ、やることがある生徒はいいが、何もしない生徒はそれでいいのかというところ。選択式にするのは下校時間がバラバラになるのでスクールバスの問題ある。町内ふらふらしてしまう生徒も出てくる懸念ある。

(委員)クラブチームに行きたい生徒は行っていいと思うが、同じ時間を共有することは今しかできない。団結することや組織力を培うためにも部活の時間は大事だと思う。

(委員)勝つためにがんばることも大事だが、プレッシャーになりすぎるとよくない。結果じゃなく、どこもがんばっているの、コツコツがんばってできるようになったことがあるとか、指導する先生方にもそこを強調して向かってほしい。

(委員)野球は八頭中と江山学園合同チーム。人数足りないのか。

(事務局)江山学園が足りないの、八頭中が受け皿になっている。

・「令和9年八頭町はたちのつどい」について

例年どおりのスケジュールで実施予定。

(委員)実行委員は何名か。

(事務局)募集をして何人手が挙がるかというところ。もし足りなければ事務局がカバーする。

(委員)例年見ているが、実行委員が動かない。事務局の職員ばかりが動いているので、実行委員が動けるように事務局はそのサポートをしてほしい。準備ができるのをただ立って見ている状態だった。改善してほしい。事前の打合せをしっかりとやって、当日の役割分担をきちんとする。これは社会でも絶対必要になる。

(事務局)改善していけると思う。

- ・第18回森下広一杯八頭町マラソン大会について

ハーフ実施しない。9時50分の通行止めの時間内に戻ってこられない。時間の延長も難しい。迂回路ないため、民間事業者や近隣集落に影響ある。歩道を走るのも横断が必要になるため難しい。これらの理由から物理的にできない。10kmは開始時間を早め、折り返し地点を変更することで実施が可能になる。この案で実行委員会で諮る予定。

ハーフの走行ルートを設定しなおすことも検討していく予定。公認コースの更新が5年ごと。次は3年後。そこで別ルートの公認を取ることができるかなというところ。そのため来年すぐ新しいルートというのは難しいと思う。素人が計測した距離で満足度得られるのかということになる。今後そこも含めて議論していく。

(委員)公認コースを取ることの費用結構かかる。ハーフに参加する人が県外から多く来られていたことを考えると、赤字になるのか。

(事務局)もともと儲けが出る大会ではなかった。参加費が安いのではという意見もあった。

(委員)公認コースにしなくてもいいのではないかと思います。町民のマラソン大会ということにした方が余分なお金を使わなくていい。

(事務局)一旦は今回やってみないとわからないところがある。参加状況なり見て、今後の必要性などの議論も出てくると思う。今年度についての最終決定は、24日の実行委員会で決まる予定。

- ・鳥取県市町村教育委員会研究協議会定期総会並びに研究大会の参加について参加者の確認。意見なし。